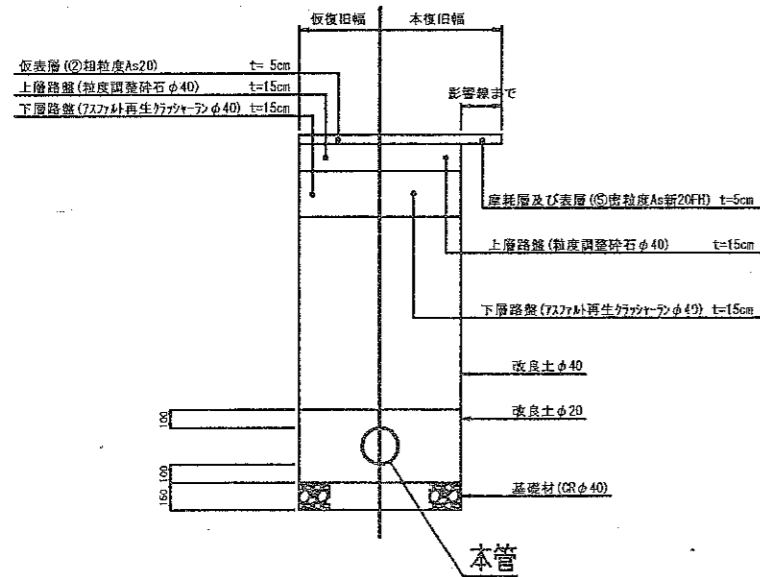
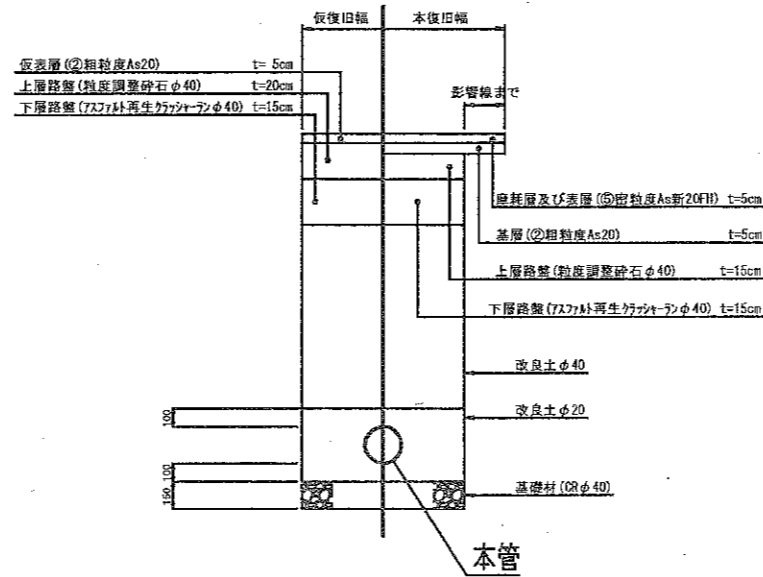


6. 付帯工

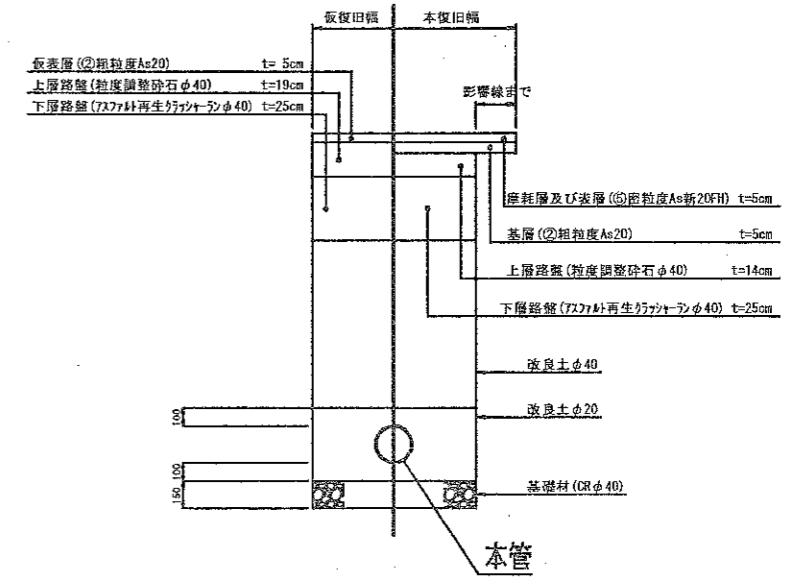
県道 (N₄ 交通)



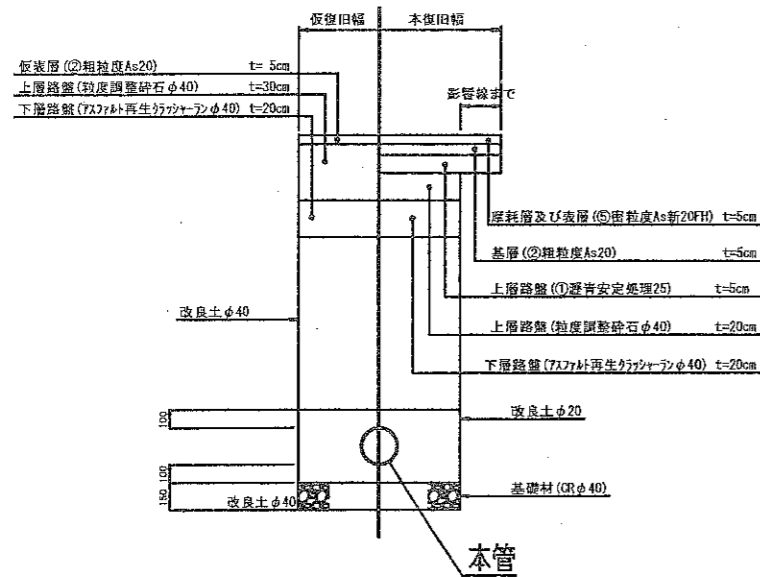
県道 (N₅₋₁交通)



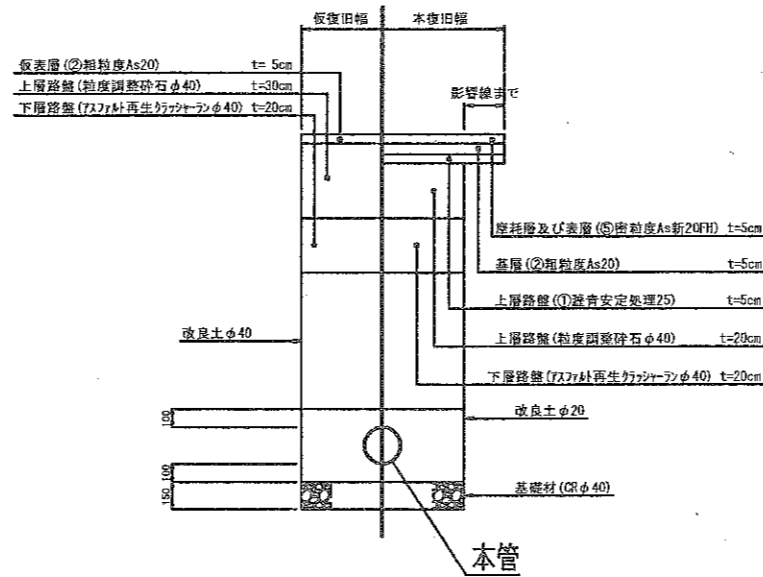
県道 (N₅₋₂交通)



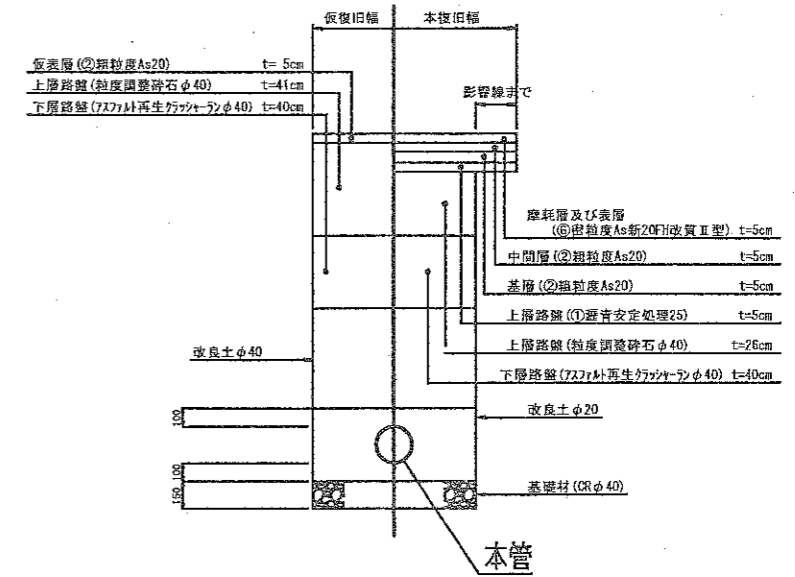
県道 (N₆₋₁交通)



県道 (N₆₋₂交通)



県道 (N₇交通)



※表層に用いるアスファルト混合物は、一般には⑤密粒度As (新20FH)、
 縦断勾配6%以上・橋面・消融雪施設設置箇所では⑦密粒度As (新20FH) 改質 I 型を採用する。
 設計・工事においては、舗装構成区分一覧表と設計CBRIにより舗装構成を決定すること。(平成23年1月11日上振地第582号新潟県上越地域振興局地域整備部長通知)
 設計CBR8とする。

図番	図名
601	本管布設及び路面復旧標準断面図(県道)

歩道及びコンクリート舗装道の舗装構成

1. 歩道部

(1) 舗装構成

- ・ 現況舗装厚に合わせる。
- ・ アスファルト舗装の場合：表層工 4 cm (⑨密粒度As13F)、路盤工 15 cm以上 (クラッシャーラン40mm)

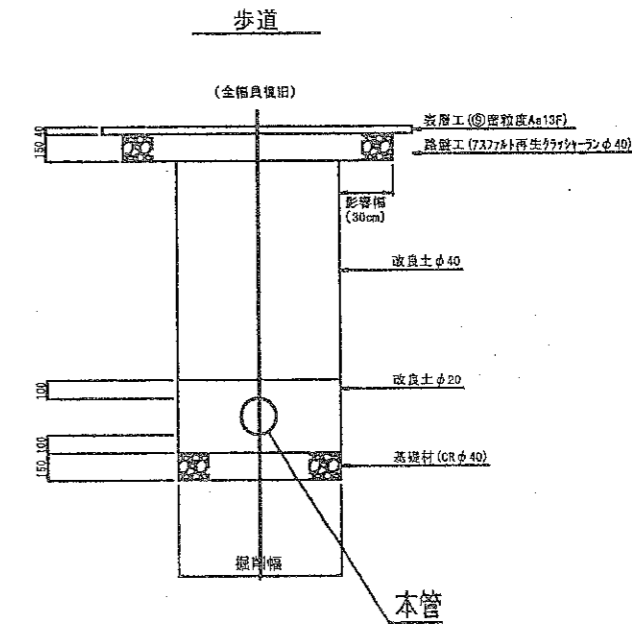
(2) 復旧幅員

① 道路横断

- ・ 車道部の横断箇所による。

② 道路縦断

- ・ 全幅員復旧とし、表層は全幅員、下層路盤は掘削幅+影響幅 (30 cm) を新設し、他は表層施工前に砂利補充し、十分転圧する。

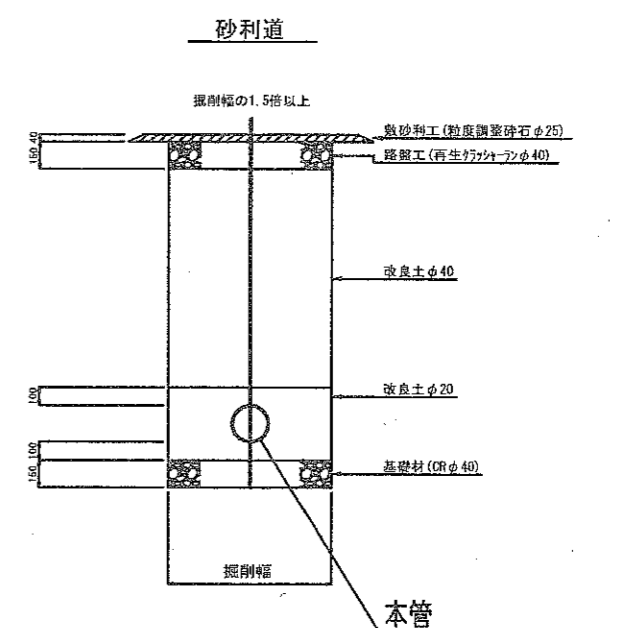
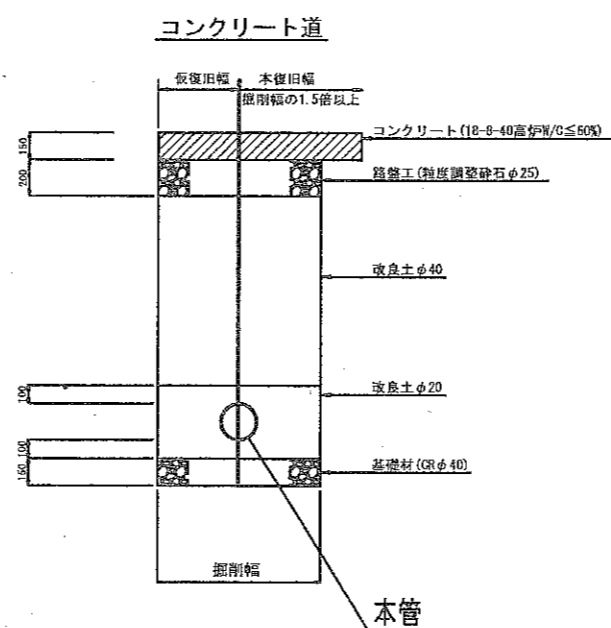
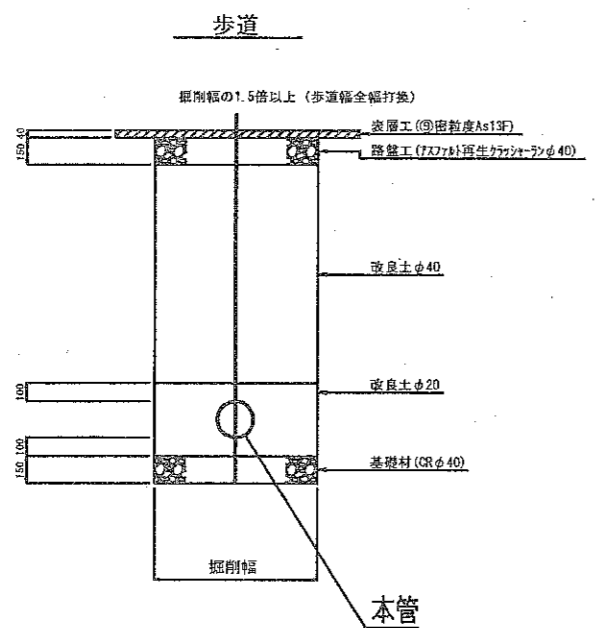
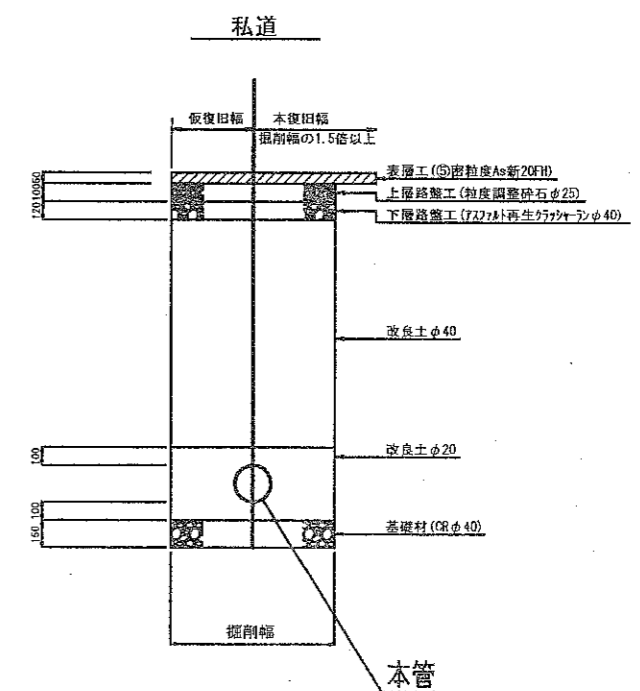
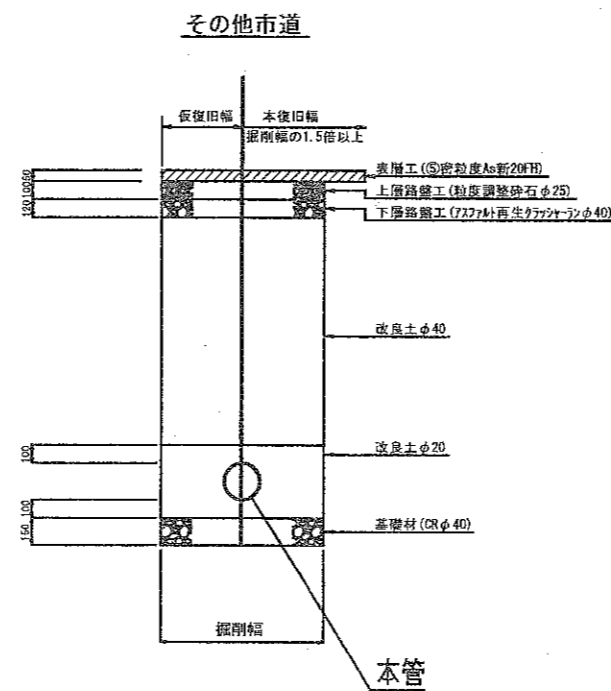
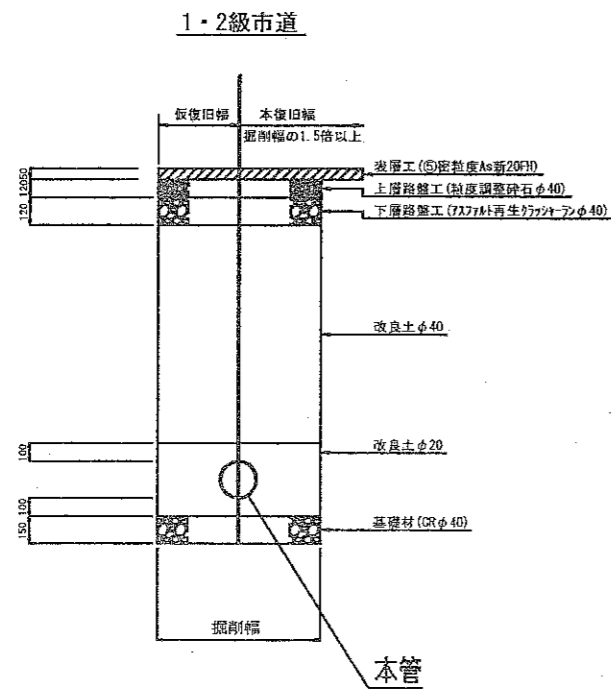


2. コンクリート舗装道

コンクリート舗装道の地下埋設は原則として認めないが、やむを得ない場合の復旧は下記により行うこと。

- (1) 舗装構成は現道に合わせて、占用工事に関係するスパン全部を打ち替える。
- (2) 細部については、「舗装マニュアル」等による。
- (3) 同程度の機能を有するアスファルト舗装で復旧することも認める。ただし、その場合も占用工事に関係するスパン全部を打ち替える。

図 番	図 名
602	歩道及びコンクリート舗装道の舗装構成



※乗入れ部に関しては「上越市道路工事施工承認基準」を適用すること。
 ※消融雪施設 (市管理) が設置してある場合は、表層工の合材を⑦密粒度アスコン (新20FH) 改質I型とすること。
 ※アスファルト再生クラッシャーランの入手が困難な場合は、再生クラッシャーランφ=40~0mmの使用を認める。

図番	図名
603	本管布設及び路面復旧標準断面図 (市道)